

# 寸 脇

THE GIFU UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

第4号 1991. 6

## 目 次

視的見地による図書館（森秀樹）	1
アフリカ日記より（梶田澄雄）	3
教官寄贈図書（平成2年度）	4
教官推薦図書 変貌する精神医学（貝谷久宣）	5
木綿以前の事、スペースにいたる（黒崎新也）	5
附属図書館統計	6
図書館関係会議など	7
図書館員から一言 宮野千都	8
間所 晃	8
お知らせ	8

## 視的見地による図書館

森 秀樹

昨年暮れより凸レンズを使用し始めた。まだ若造と思っていたが、今まで遠くの物なら何でも読めると威張っていた分だけ早く、近くのものが見にくくなっていた。この凸レンズ、市内のデパートにて購入したものだが、使い始めて新たな苦労が出現した。確かに近場は良く見え、辞書の画数の多い漢字を見たりしてささやかな喜びを得はしたが、人の顔の輪郭がはっきり見えなくなり、少し長くかけていると軽い吐き気さえする様になった。デパートの商品券で眼鏡を買ったこと自身、乱暴なことだったと後悔をしていたが、この眼鏡まもなく、うっかりして新聞と一緒に畳の上で踏んづけて潰してしまった。次の眼鏡はその筋の老舗と思われる眼鏡専門店にて求めた。その店で詳しい説明を聞くまではこの手の眼鏡に三つのタイプがあるのを知らなかった。純粹な老眼鏡、遠近両用、中近両用レンズがそれらで、最初に手に入れたのは純粹な凸レンズであった。店の人のアド

バイスにより、中近両用に決め、これを現在使用している。向田邦子の書き物に初めて老眼鏡を買い求めた時のエピソードがある。彼女は眼鏡店にて店員に「眼鏡は一つでよろしいか？」と尋ねられて腹を立てたが、後に、眼鏡の枠を自分で小さなねじ廻して直そうとして、焦点が合わなく、眼鏡を直す為にもう一つの眼鏡がいることが分かったというものである。老眼鏡を使い始める時には多くの人が類似せる経験をする様である。この眼鏡もいつ踏み潰すか分からないし、今後、幾つの眼鏡のお世話になるのかも分からない。

自分の専門は病理学で、病理学では頻繁に顕微鏡を使用する。今までには顕微鏡を見るのに何も苦労は無かった。元来、顕微鏡の使用には眼鏡はいらぬ。顕微鏡自身によって拡大を調節するからである。ところが、眼鏡をついているのを忘れて顕微鏡を見ようとするので、眼鏡の枠かレンズを顕微鏡のどこかに「ガツン」とぶつけてしまう。

これが当初、一日に一回は起こった。

病理医の仕事の一つは臨床医から依頼される組織標本による病理診断である。標本には患者の年齢とか採取部位とか病歴等の記載がついている（これは又、病理側には重要な情報である）。この記載を読む時は眼鏡を使用し、顕微鏡を見る時は眼鏡をはずす。この操作を繰返すことになる。最近、小さな字で細々と書いてある説明に少々腹が立つことがある。逆に、大きな字で簡潔に書いてあると妙に感心したりする。気が付いてみると、自分の書く字も以前より大きくなっている様である。視力の衰えは部屋の明るさに敏感である。そもそも凸レンズ使用を決心したのは某学会の座長をしていて、暗くなった途端に抄録の字が見にくくなつて演者の名前を間違えて紹介してしまった時である。その様なこともあってか、近頃部屋の照明が気になり出した。

良い図書館の構造的条件にはいろいろのものがあろうが、室内照明も重要な条件だと思う。この場合、特に閲覧室等に於ける手元の照度が重要であろう。私の見解だが、医学部分館の室内的照度は大変良い（本館についてはよく知らない）。とにかく明るい。時々、眼鏡を忘れて図書館へ行くが、通常それ程困らない。医学部分館の建物は医学部の他の建造物に比し、新しく、又ほぼキャンパスの中央部に位置している。但し、現在の医学部のキャンパスは凡そ、大学のイメージにはほど遠い。余りに狭隘であり、騒々しく、又、緑もほとんどない。このキャンパス内では散歩を試みることは不可能である。ぼんやり歩いていると車か自転車か人にぶつかる確率が高い。強い集中力と良い視力が要求される。

今までに幾度か欧米の大学や研究所を訪れる機会があった。いずれも木立ちに恵まれ、閑静な環境にあった。まして図書館は大抵の場合、それらの機関にとって象徴的な建造物であり、最も良い位置にあった。ハーバード大学の図書館本館の前に立ったことがある（中には入っていない）。圧倒感があったし、近くを散歩している人と一緒に歩いている犬も我が医学部キャンパスでみかけるのら犬より、はるかに気品高く、賢そうに見えた事を記憶している。

1979年から2年間、ニューヨーク市北部郊外の癌関係の研究所に留学していた。この研究所にも附属図書館はあったが、雑誌や本の種類もそれほど多くなかった為、隣接している医科大学の図書館をしばしば利用していた。この医科大学の図書館では研究所のIDカードにて施設への出入りと本や雑誌の貸し出しが自由に出来、又、コピーは5セントで2枚が可能であった。研究所と医科大学の裏手にちょっとした灌木地帯があった。医科大学の図書館からの帰りにはよく、回り道をしてこの灌木地帯を通った。そうでなくとも、この灌木地帯は自分のお好みの散歩のコースでもあった。季節は忘れたがある時期には多くのblackberryの実がなっていたし、ある時期には栗の実がいっぱい落ちていた。その辺りにはうさぎやウッドチャック等の小動物をよくみかけた。やがて彼等の巣穴の幾つかを覚えた為、時々、挨拶代わりに木の棒で穴をつついた事もある。研究所の方の図書館はこじんまりとしたもので閲覧室は時々セミナー室に早変わりもした。研究所の図書館の事務担当者は知り合いのPh.D.の奥さん（彼女は一人でやっていた）であったこともあり、気楽に雑談もしたし、いろいろ便宜をはかってくれた。彼女はほとんど毎日カウンターの上にクッキーの入ったバスケットを置いていて利用者はそれでお相伴にあずかっていた。但し彼女、少々ルーズな所があり、新着雑誌の行方が時々不明になっていた。この二つの図書館と少しだけ覗いたヨーロッパの2、3の大学や研究所の図書館を思い出しながら我が医学部図書館との比較を利用者の立場から試みてみると、後者は前者と比べて少しも遜色がないと思う。当医学部分館で働いている人は利用者に対して親切であり、仕事も正確にして迅速である。閲覧室の窓を開けば渡り廊下を歩く人と視線が会い、犬の泣き声を始めとして巷の種々の音が耳に入つて来ることはあるが、雨の日もほとんど濡れずに教室から2、3分で飛び込む事が出来、何にもまして、館内は徹底的に明るい。そこには凸レンズ使用者を労わる設計がなされている。

図書館は本来情報の蓄積と提供の場所である。その意味に於いて人は誰でも頭の中に個人の図書館を有している。蔵書の数、種類等は人によりさ

まさまであろうし、その system にもかなりの個人差があるはずだろ。自分の図書館はどうであろうか？かなりの蔵書があったと思ったが、整理整頓が悪い為に仕舞い込んでいた本が近頃スマースに出てこない。新着雑誌もかなり通過するがどこの棚にいってしまうのか分からぬ。今

後、脳動脈の硬化が進行して多数の書架が朽ち始めるにちがいない。頭の中のエレベーターも今の様には動かなくなるだろう。せめて照明を出来るだけ明るくして、大事な本だけいつでも取り出せる様にしておこう。（もりひでき：医学部教授）

## アフリカ日記より

梶田 澄雄

1984年10月22日(日) 晴

主目的であるケニアでの人類遺跡発掘を終え、考古学者・文化人類学者・地質屋の私の三名が、一縷の望みをかけてエティオピアの首都アシスアババに来てはや三週間、明日はケニアのナイロビに戻らなければならない。

当初計画した世界最古の人類遺跡のあるアワシュ河流域の予備調査は、関係当局への日参も空しく、複雑な国際関係と治安の悪化を理由に許可されず、観光旅行に名を借りた二回の下見しか出来なかつた。

今日も観光旅行の名目で、フランス隊が発掘中断中のマルカ・クントール遺跡を見学することにした。

朝、予定の7時30分よりも30分も早く旅行公社の車が宿舎のエティオピア・ホテルに来たのはよいが、ミニバスである。遺跡への道はジープでないとダメだと念を押しておいたのに！

交渉の結果、やっと二時間後にジープに乗りかかる。出発。車はドンドン北上する。遺跡はアシスアババの南である。運転手に注意するが、英語もフランス語もロクに通じない。とにかく南へ行けと命令し逆もどり。

地図をたよりにマルカ・クントールの部落に着いたが遺跡の位置がはっきりしない。少し頭の良さそうな若者がいたので尋ねたがこちらの言葉が少ししか通用しない。他に言葉の分かる者もいないので、彼に発掘を表現するためにスコップで土を掘る仕種をしたら分かったらしいので発掘現場への案内を頼む。

連れて行かれたところは牛小屋である。人夫頭らしいのが出てきて証明書を見せろと言う。エティオピアではすべての考古学調査は禁止され、そのためにフランス隊も発掘中断の憂き目に会っているので、そんな物があるはずはない。と思ったら運転手君が、それらしきものを取り出す。見ると旅行公社(国営)の運転指示書である。それには、この先の教会に行って案内を頼めと書いてある。

運転手と案内してくれた若者と人夫頭らしいのが盛んに言い合っていたが現地語なのでさっぱり分からぬ。しかし、わざわざ日本から来たのだからということで、とにかく案内してくれることになったようだ。

はじめ牛小屋の中を案内して、つぎには豚小屋を見させてくれたが、肝心の遺跡には案内しない。何のことか、さっぱり分からぬが、言葉がロクに通じないところへ、こちらもお忍びなので強いことは言えない。

とにかく、指示書にある教会へ行こうということになったが、ここからさらに30キロも南だとのこと、フランス隊の報告書にある発掘位置とは全く異なる。遺跡はこの付近でなければならぬ。

教会へは文化人類学者が一人で行き、考古学者と地質屋の私の二人でこの付近の予察をし、一時間後に待ち合わせことにした。

考古学者といっしょに露出の良い崖を登り下りし、大量の石器や黒曜石の含まれている地層を観察していると私たちの後10メートル位のところを一人の身なりの良い青年がずっとつけてくる。

何せ、軍人と警察の国で、大学教授も自分の大学に入るのにボディ・チェックを受け、無断で写真を撮ることも許されないエティオピアである。気味悪かったが、あまりしつこくついてくるので、こちらから写真を撮って良いかと聞くと、良いだろうと言う。英語もかなり出来る。

色々と話しているうちに、この部落の有力者の息子で、職は無いことなどがわかった。信頼できるようなインテリなので、思いきってこちらの目的を打ち明けると、遺跡のことなら良く知っていると言うので案内を頼む。

そのうちに、文化人類学者が戻ってきたので話を聞くと、教会はあったが誰もいなかったとのこと。

今までの妙ないきちがいを総合し、分析すると、どうも次のようなことらしい。

旅行公社では国で定められた観光コース以外は外国人を案内することは出来ないので、私たちのマルカ・クントール遺跡行きを可能にするため、比較的有名なその教会を観光目的とするコースを創作し、その途中、偶然、遺跡に寄ったことにし、トラブルがおきた時の逃げ道にした。そして言質を取られないために、その事情を私たちには一切言わず、つけるはずのガイドもつけず、言葉のロクに通じない運転手だけにした。「頭があるのならお前たちで判断して勝手に行動しろ。当局は一切関知せず。」ということらしい。

## 教官寄贈図書(平成2年度)

ここには学内の教官が著作・編集・刊行等に関係した図書で、図書館に寄贈された分を掲載しています。御寄贈ありがとうございます。引き続き御寄贈をお願いします。

(医)野澤 義則

膜の細胞生物学 W. H. Evans ほか

野澤義則訳 南江堂 1990

(医)田中 卓二

Antimutagenesis and anticarcinogenesis mechanisms, 2. Ed. by Yukiaki Kuroda et al. Plenum, 1990.

(医)大森 正英

新・健康の科学 大森正英ほか 中央法規 1990

(医)大友 弘士

医動物学(寄生虫学) 金子清俊編 改訂2版  
医学教育出版社 1990

道理で、遺跡行きはダメだと一週間も引き伸ばしておいて、明日は出国と言う今日になって許可を出したわけだ。イキな計らいに感謝しよう。

牛小屋、豚小屋の見学は、言葉が通じないまま、土を掘る真似をしたのを牛や豚に餌をやる動作と間違えられたのだ。

なにしろ、エティオピアでは放牧が普通で、牛小屋や豚小屋は珍しく、よそからここに見学に来る人もあるとのこと、私たちは農業視察団と間違えられたわけだ。

これですべての謎は解けた。

新しく頼んだ案内人は、非常に優秀で私たちの要求する場所はすべて案内し、おまけに、望むべくもないと思ったフランス隊の施設やコレクションまで、そこの管理人にはなしをつけて見せてくれた。

ただ一つ間違いがあった。充分見学し終わったあと、「車のところへ連れてってくれ。」と言ったら、また例の牛小屋に案内されてしまった。「カー」と「カウ」を取り違えたのだった。よほど牛小屋に縁のある日だと大笑いになった。

勘違いの多い日で予定の時刻より大分遅くなつたが、初期の目的は十二分に果たすことができた。

「おわりよければすべてよし。」幸せな気持ちで帰路についた。(かじた すみお: 教育学部教授)

(医)武藤 泰敏

肝硬変・肝癌 武藤泰敏編 南江堂 1990

(医)玉舎 輝彦

国試症例問題の解き方産婦人科 玉舎輝彦  
金芳堂 1990

(医)野間 昭夫

脂質の科学 中村治雄編 朝倉書店 1990

(医)松波 謙一

日本生理学会生理学総説集1982-1989年／上・下  
日本生理学会日本生理学雑誌編集委員会編  
日本生理学会 1990

## 教官推薦図書

教官から、その専門分野を専攻しようとする学生に先ず薦めたい入門書・基本図書、あるいは、より多くの教官・学生に教養書として是非一読を薦めたい専門図書を紹介していただいている。

### 変貌する精神医学

貝 谷 久 宣

精神病が不治の病であった時代の精神医学者ができることは精神病の症状を記載し、その経過や転帰を観察する事であった。この中で客観的普遍的事実を取り出すことは科学としての医学の重要な作業といえた。しかし、一部の者は精神病の成り立ちを客観的根拠のない理論—精神分析—で解釈したり、畠違いの哲学的思考を導入し説明した。このような非科学的な作業が精神医学を混乱させた。しかし、臨牀上効果のある向精神薬が出現するに及んで精神医学は医学として著しい進歩を開始した。精神病治療薬の作用機序を明らかにする精神薬理学の発展から精神病の原因である脳障害の性状が分かり始め、最近では分子生物学的研究が着手されている。新しい精神医学の理解の助けとなる二冊の本を紹介する。

(1) 精神分析に別れを告げよう (H. J. Eysenck, 宮内勝ほか訳, 批評社) 著者は精神分析が似非科学であることを示している。私自身、身近に精神分析の犠牲になった患者を多く知っているので確固とした根拠による精神分析批判は貴重と考える。  
 (2) 故障した脳 (N. C. Andreasen, 岡崎祐士ほか訳, 紀伊国屋書店) 最近の神経科学の発展とコンピューターの出現が脳機能についての知識を飛躍的に進歩させ、精神医学を一般医学と変わることのないレベルにし、精神病もガンや心臓病と変わることのない病気であることを指摘している。すなわち、精神病を心という身体・脳とは無縁の聖域の出来事として畏怖し、あるいは嫌悪してきた長い歴史との訣別を見事に示している。

(かいや ひさのぶ：前医学部助教授)

### 木綿以前の事、スペースにいたる

黒 崎 新 也

麻の韌皮をほぐして糸を紡ぎ、布を織った木綿以前の事（柳田国男、☆）は人類がはじめてものにした技術の一つといえる。この技術の種子は發芽、成長し、巨大な幹に無数の枝葉をつけた。「纖維」はいま宇宙を飛び、情報・エネルギー変換のかなめとなり、生体中に機能して、材料革命の尖兵として華々しい。ニュー纖維の世界（本宮達也、日刊工業新聞社、1988）、おもしろい纖維のはなし（纖維学会編、同上、1989）はこの歴史的経過と最新情報を気軽に読ませる。

モチーフの一つは Biomimetics ——生体模倣、コンピューターにおける神経・脳システムのごとし。局部的には凌駕し、トータル的には及ぶべくもない。——この際は、人類と五千年の因果をもつ天然纖維の構造と物性、そして機能への執着。

ウールを例として、たのしい羊毛講座（別宮不二雄、北原彰軒、日本纖維新聞社、1990）、ウール漫談（松岡靖雄、日装出版、1989）をあげる。後者、著者はS34年工学部卒。ようもうからいんもうまでをもう羅する。電車の中でどうぞ。

話、ここに及べば、何としてもこの世界の背景について理解を得たい。羊毛文化物語（山根章弘、講談社、1979）は羊と人間の深い関係を明かす。女工哀史（細井和喜蔵、☆）、あゝ野麦峠、正、続（山本茂実、★）は日本資本主義の傷痕を赤裸々に語る。——これ以後は脱線——同じ山本茂実氏の飛驒高山祭（★）、喜作新道（★）を岐阜に学ぶ諸君のふるさと認識のためにお薦めしておこう。（☆：岩波文庫、★：朝日文庫・角川文庫所収）  
 (くろさき しんや：工学部教授)

## 附属図書館統計

平成3年3月31日現在

## 蔵書冊数

		59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	元年度	2年度
本館	和書	352,026	360,101	371,110	382,187	396,093	409,354	419,842
	洋書	138,794	143,823	151,578	156,694	162,058	167,757	172,925
医分館	和書	54,275	55,907	52,588	53,909	55,646	57,816	60,389
	洋書	50,852	52,978	51,768	53,825	55,935	58,091	60,261
合計		595,947	612,809	627,044	646,615	669,732	693,018	713,417

## 年間図書受入冊数・年間雑誌受入種類数

		59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	元年度	2年度
本館	和書	13,786	10,319	11,224	11,077	13,906	13,261	10,488
	洋書	5,952	5,237	5,813	5,116	5,364	5,699	5,176
医分館	和書	1,512	1,632	1,942	1,321	1,737	2,170	2,573
	洋書	1,602	2,126	2,068	2,057	2,110	2,156	2,170
図書合計		22,852	19,314	21,047	19,571	23,117	23,286	20,407
本館	和雑誌	2,102	2,104	2,104	2,115	2,268	2,174	2,208
	洋雑誌	1,279	1,249	1,249	1,247	1,290	1,293	1,307
医分館	和雑誌	525	527	526	526	528	540	543
	洋雑誌	683	684	685	688	685	708	726
雑誌合計		4,589	4,564	4,564	4,576	4,771	4,715	4,784

## 館外貸出冊数

		59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	元年度	2年度
本館	教職員	1,072	1,280	1,366	1,474	1,957	1,844	1,734
	学生	20,029	26,284	26,953	29,871	32,738	35,507	36,361
	学外者	144	326	397	701	618	941	504
医分館	教職員	7,222	5,953	6,031	5,589	5,080	5,217	5,443
	学生	4,226	3,708	4,383	4,255	4,147	4,620	3,900
合計		32,693	37,551	39,130	41,890	44,540	48,129	47,942

## 図書館間相互協力・情報検索

		59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	元年度	2年度
本館	貸借	冊4	冊1	冊4	冊2	冊13	冊19	冊7
		30	58	23	62	120	73	92
	文献複写	件548	件635	件914	件780	件946	件1,603	件1,667
		依頼	2,927	2,702	3,711	2,963	2,938	3,051
医分館	貸借	件50	件49	件65	件83	件120	件182	件156
		0	0	0	2	1	1	0
	文献複写	8	6	9	21	26	14	24
		件3,387	件3,506	件3,184	件2,567	件2,784	件2,901	件2,890
	依頼	1,625	1,256	1,385	1,549	1,503	1,507	1,398
情報検索		件84	件75	件81	件105	件104	件103	件80

平成3年度附属図書館関係委員会委嘱

附屬図書館 委員会委員		資料選定委員会委員		館報編集委員会委員		図書・紀要編集委員会委員(医学部分)	
館	長	大	大	大	大	岡	光行郎
医学部分	長	岡	岡	谷	谷	江	三一郎
教育	部	合	合	谷	谷	若	雄忠
医	学	伸	伸	伸	伸	水	卓也
工	学	昭	昭	奈	光	井	也道之
農	学	剛	剛	波	光	林	一
教	養	慎	慎	良	二	上	孝
工業短期大学部	附屬図書館	良	良	祐	吉	波	慎勇
		祐	祐	尚	一	木	良智
		尚	尚	木	雄	岡	倫
		木	木	曾	真	島	鉄宏
		佐	佐	吉	夫	海	雅
		吉	吉	河	拓	田	光
		中	中	森	男	元	行
		永	永	中	子	松	三
		河	河	村	幸	内	忠
		小	小	上	かず	山	卓
		羽	羽	齋	啓	味	也
				中		兼	道

人 事 異 動 平成3年1月-4月 ( ) 内は旧

- 3.31 井深節子 退職 4. 1 波多江貴子 整理第二係（採用）  
4. 1 河田芳雄 農學部連合大學院總務係長 6. 1 黒柳裕子 整理第二係（閲覧係）  
（總務係長） 宮野千都 閲覧係（医学部分館図書係）  
間所晃 総務係長（人事課職員係長）

図書館関係会議（学内） 平成3年1月-4月

- |      |                 |      |               |
|------|-----------------|------|---------------|
| 1. 9 | 第6回図書・紀要編集委員会   | 3.20 | 第8回図書・紀要編集委員会 |
| 1.28 | 第4回附属図書館館報編集委員会 | 4. 8 | 第1回図書・紀要編集委員会 |
| 2.22 | 第59回附属図書館委員会    | 4.26 | 第60回附属図書館委員会  |
| 3. 6 | 第7回図書・紀要編集委員会   |      |               |

図書館関係会議・研修（学外） 平成3年1月～4月

- 1.30 東海地区大学図書館協議会講習会  
平成2年度第2回  
(於大同工業大学 山田(洋))

3. 6 岐阜県図書館職員研修会(中級)  
(於羽島市立図書館 山田(洋))

4.22 東海地区国立大学図書館協議会  
(於静岡大学 事務長 森)

## 図書館利用証の発行について

「図書館利用証」をまだ受取っていない人は、閲覧係または医学部分館図書係で手続きをしてください。

\*ディアと図書館・パピルスからCD-ROMまで

図書館では、7月1日から上記テーマの展示を行います。場所は附属図書館二階ホールの展示コーナーです。

## 図書館員から一言

### 宮野千都

6月1日付けて、医学部分館から本館に戻ってきて、閲覧を担当しています。まだまだ未熟で仕事に追われる毎日ですが、図書館に対する希望は多く持っています。精選された利用度の高い資料を所蔵し、利用者に喜ばれる図書館であってほしいです。そして、研究熱心な利用者がいつも多勢いて、活気あふれた雰囲気のなかで、私も生き生きと働けたらいいなあと思っています。

(みやの ちと)



### 間所晃

この4月の人事異動により総務係へ配置換えになりました。4年前にこのキャンパスにきてから、2つ目の部局です。この図書館へ勤務して、専門的にコンピューターシステムによる情報検索等迅速に対応という面があったり、約60万冊の蔵書数があり、各専門分野の二次資料を備え、研究者に対する様々な情報提供を行っている場所であることを知りました。職員の方々も一度図書館の本を開いて見ようと、おいでください。

(まどころ あきら)



## お知らせ

- フロッピー版 Current Contents のご案内  
医学部分館では、Current Contents on Diskettを購入し始めました。冊子体に比べ、多様な検索機能を有し、検索式の保存や、検索結果のダウン・ロードも可能です。
- 平成4年度購入雑誌の調査について  
平成4年度に購入する国内雑誌及び外国雑誌の調査を9月始めに行います。創刊誌の見本、カタログ等が図書館にありますので、選定の参考にしてください。

## お知らせ

- CD-ROM一覧 (平成3年6月30日現在)  
MEDLINE (医分)  
Excerpta Medica Library Service (医分)  
J-BISC (本館)  
学術雑誌総合目録 (本館)  
CD-WORD (本館)  
電子広辞苑 (本館)  
現代用語の基礎知識 (本館)  
国文学研究資料館マイクロ資料目録 (本館)

## 休館日のご案内

次のように臨時の休館日を予定しています。

- 毎月第二火曜日
- 夏季休業中の図書整理期間  
附属図書館 8月5日(月)～8月13日(火)  
医学部分館 8月13日(火)～8月16日(金)  
\*13日を除く3日間は閲覧のみ可能
- 12月27日(金)～1月4日(土)

## 平成4年1月初旬まで

次のように夜間開館停止を予定しています。

附属図書館	7月15日(月)～8月24日(土)
	1月6日(月)～1月11日(土)
医学部分館	8月12日(月)～8月17日(土)
	12月25日(水)～1月11日(土)

\*図書館内の案内・掲示に注意してください。

岐阜大学附属図書館報「寸胴」第4号 1991年6月30日

編集	委員長：大谷 熊 小林かず子、羽賀啓子	委員：佐々木栄英、中川優子、永田 拓、河田幸男、
発行	岐阜大学附属図書館	501-11 岐阜市柳戸1番1 ☎0582-30-1111